

佐賀市 32 歴史探訪

たかぎじょうあと 高木城跡

高木八幡宮の北西約150m付近に『高木城址』と刻まれた碑が建っているのをご存じでしょうか。現在は住宅街となっているため、城としての面影はほとんど残っていませんが、この一帯は、平安時代の終りごろから戦国時代にかけて、現在の佐賀郡大和町から高木瀬町を本拠として勢力を誇っていた高木氏の居城があったとされている場所です。

高木氏は藤原氏を祖とし、代々大宰府や肥前国の役人として次第に勢力を伸ばし、その一族が領地の一つであるこの地域で生活するようになり、支配力を強めるための拠点として高木城が築かれたと考えられます。

高木城は、平安時代末期の久安元年(1145年)に築城され、天文23年(1554年)に龍造寺氏との争いに敗れ、やがて廃城になるまでの約400年間存続したとされています。しかし、その正確な位置や規模などについては記録がなく明らかではありません。

ただ、当時の城は、雄大な天守を持つような立体的な城ではなく、主屋や付属する建物、そして溝(堀)などで構成された平面的な「館」であることが最近の研究結果で明らかにされており、高木城もそのような形態のものであったと考えられています。

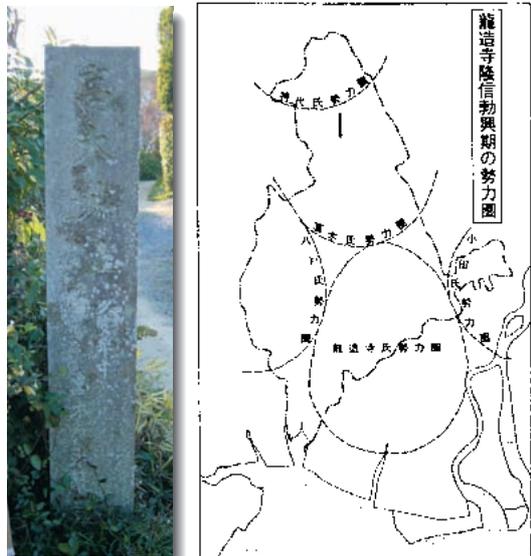
近年、高木城推定地内の一画で発掘調査が行われ、高木城が存続していた時代のものと考えられる建物跡や井戸跡が発見されました。現在のところ断定するまでには至っていませんが、これらは高木城に関連する施設の一部である可能性が高く、文献などでは得られなかった高木城の様相はこれら考古資料により、わずかですが明らかにできそうです。

一口メモ

高木城跡の周辺には、高木氏により創建された高木八幡宮や菩提寺とされる正法寺があります。また、今も残る「寄人」

(領主に仕え雑役を勤めた農民)や「館橋」などの地名にその面影をしのぶことができます。

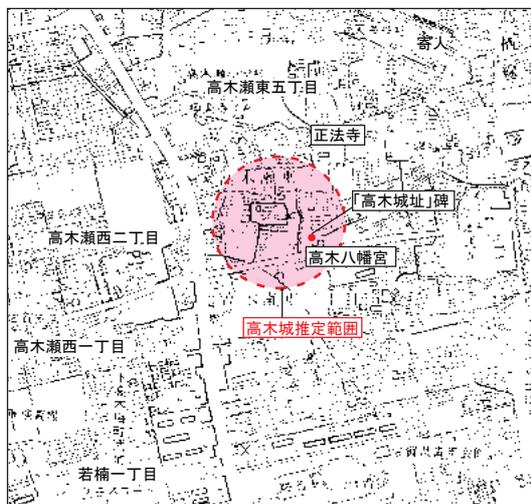
正法寺



▲「高木城址」碑



▲高木八幡宮



高木城跡周辺見取図